

“ぎゅっと”カーよしだの活用で、子育て世代の送迎負荷軽減と みんなで実験データを読み解き地域交通を考える機運づくり

資料No. 3

吉田町地域公共交通協議会

事業の基礎情報

実施主体	吉田町地域公共交通協議会
事業実施地域	静岡県吉田町（主たる地域）・牧之原市
共創の類型	官民共創 ・ 交通事業者間共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	こども・子育て ・ 商業・農業 ・ 観光・まちづくり ・ その他（データの活用）
共創パートナー	吉田町（企画課、こども未来課、福祉課）・ 有限会社平和タクシー ・ 東海タクシー株式会社 ・ しずてつジャストライン株式会社 ・ 株式会社アイシン ・ 吉田町商工会 ・ 名古屋大学環境学研究科地域戦略研究室 ・ 株式会社イズハラ・ソリューションズ ・ 社会福祉法人吉田町社会福祉協議会 ・ 静岡県立榛原高等学校
運行形態	①実証事業として運行する交通モード：AIデマンド交通 ②道路運送法の許可区分：一般乗合旅客自動車運送事業の区域運行
運行主体	有限会社平和タクシー、東海タクシー株式会社

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

- ・吉田町の公共交通は、高速バス・路線バス・タクシーと、AIデマンド型乗合タクシー“ぎゅっと”カーよしだ（以下、“ぎゅっと”カー）（R5年10月から実証実験開始）で担われている。R4年の住民意識調査では、「公共交通機関の便が悪い(74%)」と回答があり、住みにくさや町外に移りたい理由となっており、若年層ほどこの傾向が高い状況だった。既存の路線バスだけでは町内を十分にカバーできず、バス運転手の確保の難しさ、路線の減便や縮小が懸念されており、住民の移動手段は自家用車の割合が高い。自家用車を保有しない高校生等子どもや高齢者の移動手段として、“ぎゅっと”カーの導入の実証実験が始まった。
- ・R5-6年前半の導入初期は、課題解決が急がれた高齢者を主対象として、“ぎゅっと”カーの認知拡大と利用促進を実施した結果、会員登録者数は75歳以上の35%、利用経験者比率も40%に達した（R7年3月時点）。現在は、高齢者への浸透、R6年度の高校との共創の取り組みなどで、子育て世代や若者にも認知と利用は広がりを見せ始めた。この中で、子育て世代から、通学や塾や習い事への移動に活用したいとの声、キャッシュレス決済導入を希望する声が散見されるようになりニーズが顕在化してきた。しかし、若者の認知と利用は、まだ限定的で広く浸透しているとは言えない状況でもある。
- ・子育て世代の課題解決、若者への認知拡大と利用促進が直面する課題と認識している。

地域公共交通計画への位置づけ
（位置づけ予定を含む）

有

運輸局・運輸支局への事前相談

中部運輸局静岡運輸支局

令和5・6年度共創事業における補助有無

有

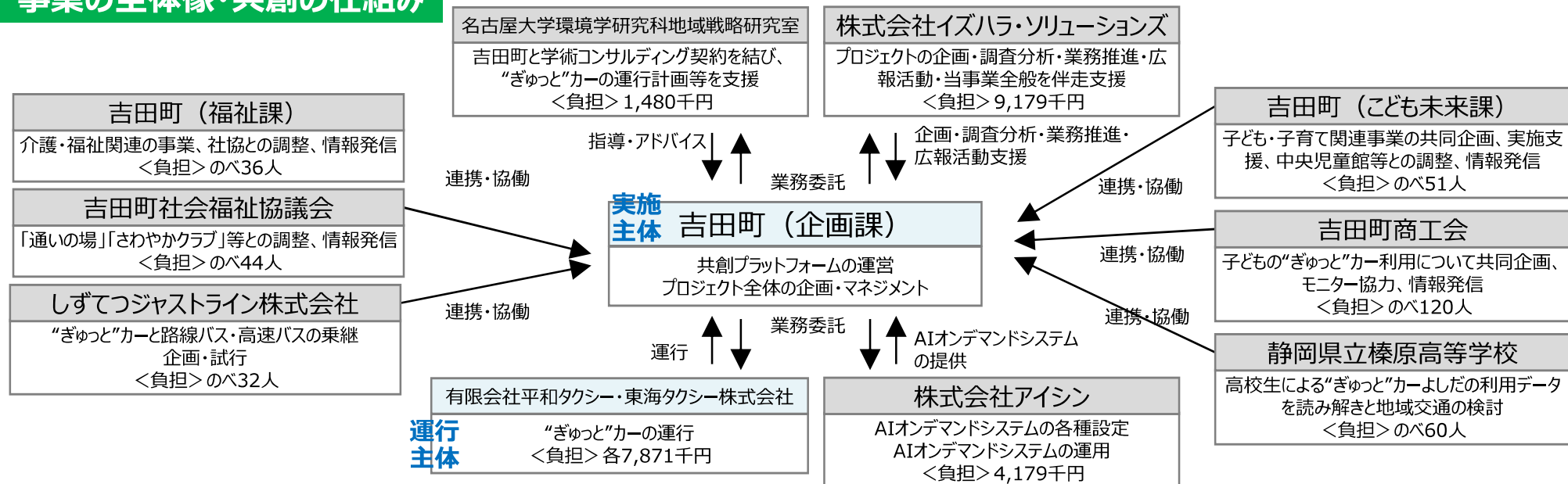
R5年度事業では高齢者を対象とし、R6年度では高校生との共創を軸に高校生や子どもへの認知拡大と利用促進に取り組んだ。高齢者については、R5年以降も自己負担で継続してきたこともあり一定の成果が出ている。R6年度の取り組みの結果、子育て世代からの送迎の代替えニーズが顕在化したため、R7年度は商工会と共創し“ぎゅっと”カーの役割の可能性の拡大、新たな活用方法を探り、運行形態の追加・変更に取り組む。

“ぎゅっと”カーよしだの活用で、子育て世代等の送迎負担軽減と みんなで実験データを読み解き地域交通を考える機運づくり

応募様式A

吉田町地域公共交通協議会

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

（事業の概要）

- 事業の目的：まちづくりと連携した面的な交通ネットワークを構築し、自家用車に頼らず、町内どこでも利用できる公共交通サービスを実現する。特に、高校生等子どもと高齢者が気兼ねなくお出かけできるまちをめざす。
- ①吉田町（企画課・こども未来課）、商工会と共に、夕方以降の塾や習い事への子供の移動について、子育て世代の送迎負担の軽減と子ども移動環境の改善に取り組む。商工会との連携で、運行計画を作成しモニターによる試行、キャッシュレス決済の導入等でPDCAを回し、“ぎゅっと”カーの新たな活用方法を探り、運行形態の追加・変更に取り組む。
 - ②吉田町（企画課）、榛原高校、名古屋大学等が連携・協働し、これまでの実証実験の利用実績やアンケート調査結果等を活用し「みんなで“ぎゅっと”カーのデータを読み解き地域交通を考える会」などを企画、実施する。
 - ③吉田町（企画課）、社会福祉協議会が連携・協働し、吉田町で開催されるイベントへの“ぎゅっと”カー特別便を企画し、テスト運行する。高齢者のお出かけのきっかけづくりに貢献できるしくみを検討し、“ぎゅっと”カーの新たな活用方法を探り、運行形態の追加・変更に取り組む。

（地域の関係者との連携・協働）

- ・吉田町と商工会、社協が参画し、“ぎゅっと”カーの柔軟な活用方法を見つけ、時間や曜日で使い分ける「時間割」を導入することで、移動に係るストレスで何かをあきらめなくてもよい暮らしが実現できる人が増えると期待している。
- ・高校生、大学生、高齢者などさまざまな年齢や立場の人が、“ぎゅっと”カーの利用実績やアンケート結果のデータを読み解き意見交換する機会をつくることにより、自分ごととして、また、さまざまな環境の人たちに思いを馳せ、吉田町の地域交通を考える機運を醸成する。

（地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性）

- ・既存“ぎゅっと”カーは、運行形態が1つ（誰もがフルデマンド型で利用可能）だが、ニーズや利用実態に合わせ、運行内容を時間により変え、効率的で合理的な仕組みにする。
- ・キャッシュレス決済の導入により、既存バス路線への乗り継ぎの促進とデータ収集を図る。
- ・住民による地域公共交通の検討と意見交換を契機に、交通事業者とも一層のコミュニケーションを図り、将来的な地域交通を建設的に共創する関係性を構築する。

令和 7 年 5 月 15 日

総合政策局地域交通課

**「交通空白」の解消に向けた
サービスを実施するための取組を支援します！
～令和 7 年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」
（「共創モデル実証運行事業・モビリティ人材育成事業」）
の事業採択について～**

国土交通省では、全国の「地域の足」「観光の足」を確保するための「交通空白」の解消に向けた取組を後押しするため、令和 7 年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」（「共創モデル実証運行事業・モビリティ人材育成事業」）の公募を行い、**「共創モデル実証運行事業」を 141 件、「モビリティ人材育成事業」を 61 件の事業を採択いたしました。**

1. 事業概要

令和 7 年度「『交通空白』解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト」は、喫緊の課題として取り組む「交通空白」の解消のほか、地域の多様な関係者が連携・協働した取組など、地域交通の維持・活性化を図る事業を支援するものです。

今回は、「共創モデル実証運行事業」及び「モビリティ人材育成事業」について、「共創モデル実証運行事業」を 141 件、「モビリティ人材育成事業」を 61 件の事業を採択しました。（採択事業一覧については別紙参照）

2. 共創モデル実証運行事業

交通を地域のくらしと一体として捉え、その維持・活性化を目的として、地域における複数の関係者の「共創」（連携・協働）による取組や「共創」を支える仕組みを構築する事業を対象とします。

3. モビリティ人材育成事業

交通に関する知見、交通に関するデータ活用のノウハウ、多様な関係者とのコーディネートを推進するスキル等を活用しながら、地域の交通が目指すべき姿の実現に向けて、主体的かつ継続的に取り組む人材を育成する事業を対象とします。

＜問合せ先＞

国土交通省総合政策局 地域交通課 板垣 菊地 春見 阿南 阿部

TEL：03-5253-8111（内線 54-817, 54-827, 54-828）、03-5253-8987（直通）

令和 7 年 5 月 12 日

吉田町地域公共交通協議会 御中

東京都港区新橋 1-1-1 日比谷フォートタワー

株式会社東急エージェンシー

代表取締役 社長執行役員 高坂 俊之

令和 7 年度 「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト

(令和 6 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト))

採択通知書(共創モデル実証運行事業)

【共創モデル実証運行】第 1539 号で応募のあった令和 7 年度「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト(令和 6 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト))については、交付規程第 6 条により、下記のとおり採択することを決定したので、通知する。

なお、交付規程第 6 条第 2 項の規定に基づき、国土交通省において、補助対象経費、交付上限額及び附帯条件が、下記のとおり定められているので、あわせて通知する。

なお、公募要領に記載のとおり、本通知のみでは、補助金の交付を受けることはできず、補助金交付申請を行い、交付決定を受けてから事業開始する必要がある。

記

1. 整理番号

1539

2. 事業名

“ぎゅっと”カーよしだの活用で、子育て世代の送迎負荷軽減とみんなで実験データを読み解き地域交通を考える機運づくり

3. 共創プラットフォームの名称

吉田町地域公共交通協議会

4. 事業実施地域

静岡県吉田町、牧之原市